

1999年センター報告・日誌

*「メンガー文庫マイクロフィルム化・目録改訂・保存事業」について

目録改訂

学術情報センターへの登録作業は、3月末でほぼ終了した。4月以降は、詳しい調査を要するもの、再チェックを要するものなどを点検し、登録と修正作業をひきつづき行っている。

保存事業

今年は、劣化調査結果に基づき、ステープラーとじ資料のステープラー除去及び再製本作業を中心に、劣化資料の保存処置を随時行っている。

* フランクリン文庫保存事業

昨年に引き続き、全資料に対する劣化調査を行うと共に、今年は特に、装丁の壊れが激しく利用に供することが著しく困難な資料、とりわけ仮綴じ本の再製本作業を中心に、その他必要な保存処置を行っている。再製本作業は専門家による外注とセンター内保存修復工房で分担して行っており、工房の技術水準の高度化が進んでいる。

* フランクリン文庫データベース化事業

4月からフランクリン文庫の学術情報センターへの登録作業を開始した。フランクリン文庫の目録は「暫定版」しかなく、本目録の作成が待たれていた。今年度は科研費の助成もつき、1200件入力予定である。

第19回西洋社会科学古典資料講習会

下記の内容で、10月19日（火）から22日（金）まで4日間開催し、全国の国公立大学図書館等から31名が参加した。

古典研究

（総論）フランス古典派経済学の周辺	吉原泰助	福島大学長
（各論1）ポリツァイ立法の開始	辻泰一郎	明治学院大学教授
（各論2）P.スラッフアのリカードゥ研究について	渡会勝義	一橋大学教授

書誌学

（1）記述書誌を読む	武者小路信和	大東文化大学助教授
（2）近代フランス出版史	長谷川輝夫	上智大学教授
（3）古版本の目録作成 - メンガー文庫の場合 -	松尾恵子	一橋大学社会科学 古典資料センター
	深沢茉莉	一橋大学附属図書館
（4）古典資料と電子図書館	栗山正光	筑波大学附属図書館

保存・修復

（1）保存情報としての製本構造	岡本幸治	製本家
-----------------	------	-----

(2) 紙資料の保存と修復

鈴木英治 修復家

古典資料センター見学(書庫・保存修復工房)

情報交換会・座談会

日誌(1999年1月～12月)

- 3月4日～5月27日 慶応義塾大学文学部図書館情報学科学生・資料保存についての長期実務研修
- 3月23日～29日 第2回資料保存研修会(附属図書館との共催)
- 3月31日 一橋大学社会科学古典資料センター年報 第19号 発行
Study Series No.41: 佐藤有史『現金支払再開の政治学 - リカードウの地金支払案および国立銀行設立案の再考 - 』 発行
Study Series No.42: 堀田誠三『18世紀イタリアにおけるイギリス経済文献導入の側面 - ヒュームを中心に - 』 発行
- 5月14日 Discussion Paper No.1: 石井 健『一七世紀後半ヘリフォード州の農村における住居と家財道具』発行
- 5月26日 第51回社会科学古典資料センター運営委員会
議題: 1 平成10年度事業報告について
2 平成10年度決算報告について
3 平成11年度事業計画について
4 平成12年度概算要求について
- 5月28日 第10回社会科学古典資料センター主催講演会
演題: 私のアダム・スミス研究 講師: 水田 洋氏(名古屋大学名誉教授、学士院会員)
- 7月28日 社会科学古典資料センター人事委員会
- 8月1日 社会科学古典資料センターホームページ開設
(URL:<http://www.lib.hit-u.ac.jp/CHSSL/>)
- 9月27日 第11回社会科学古典資料センター主催講演会
演題: フランクリン文庫のマニュスクリプトの保存について
講師: 岡本幸治氏(製本家・書籍修復家)
- 10月19日～22日 第19回西洋社会科学古典資料講習会開催
- 11月24日 社会科学古典資料センター人事委員会

利用状況(1999年1月～12月)

開催日数 226日
利用者 331人
(学内 100人)
(学外 163人)
(文献複写 68人)
利用冊数 1,527冊
複写冊数 152冊